

NO FENCE

vol. 36 2015年9月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nf-staff@netlive.ne.jp

http://nofence.jp/

INDEX

NO FENCEの「缶バッジ」「のぼり旗」(荒井正人)	2
紹介: <i>The Hidden Gulag IV.</i> by David Hawk (木村 亮)	3
耀徳収容所出身の鄭光日さん (宋允復)	5
「崔承喜の舞を伝えたい」(宋允復)	6
自由を求めてコッチェビになった少年の物語 (パクホミ)	7
曾我ひとみさんのお母さんのこと (小川晴久)	8
惻 隠 (宋允復)	10
備忘録 (宋允復)	12
NEWS	14
10月3日集会案内「肅清、ミサイル、核、拉致」	16

国連北朝鮮人権調査委員会(COI)報告書の日本政府訳を読もう

COI報告書の日本政府訳(仮訳)が外務省のホームページに公表されています。NO FENCEのホームページからリンクしていますので、まだでしたら、さっそくご覧ください。A4で425ページから成る歴大なものですが、思い切って一読しましょう!

トップページ→Books

(小川晴久)

NO FENCE の「缶バッジ」「のぼり旗」

世話人 荒井正人

■缶バッジ 救う会のブルーリボンバッジのように、それぞれの方々が、NO FENCE に同意の姿勢を示すバッジがあったほうがいいのではという考えのもとに、缶バッジを作ろうというものです。直径 32mm のフルカラーで、単価は 100 円強となる見通しです。

ただ、印刷する作業にあたり、あらかじめ大まかな個数でもいいから、印刷の個数をわかっておいたほうがいいことから、会員の皆さんにおかれましては、もしお買い求めになる場合には、事前に、印刷前に「何個買う」と事務所のほうにおっしゃってもらえたら幸いです。

缶バッジは会員のみならず、非会員にも、NO FENCE に同意する人に対しては売りたいと思います。

■のぼり旗 これも守る会、救う会等のはのぼりがあるのですが、NO FENCE にはまだ無く、作ろうということになりました。

のぼりは 1500mm × 45mm, 1800mm × 45mm または 1800mm × 60mm の大きさで、フルカラーです。どのサイズにするかも、入れる文言も決まっておられません。集会の会場に置くこと等が考えられます。



2 つともまだ世話人会で、デザインを考えている最中です。アイデアをお持ちの方は、ぜひ NO FENCE 事務所までご連絡ください。

会員の皆さま

★メールアドレスをお知らせください★

集会の予定などをメールでもお知らせしますので、
同封のハガキにメールアドレスをご記入のうえお送りください。
併せて近況もお知らせいただけると嬉しく思います。(事務局)

紹介：The Hidden Gulag IV: Gender Repression & Prisoner Disappearances. by David Hawk

事務局長 木村 亮

これは 2015 年 9 月 18 日に公表された報告書で、HRNK (The Committee for Human Rights in North Korea) のウェブサイトからダウンロードできる。

タイトルからわかるように、『隠された強制収容所』と題された一連の報告書の 4 冊目である (最初の 1 冊は小川代表らの手で翻訳出版されている)。

今回の報告書で扱われている新しいトピックは、下記の 2 つである。

- (1) 全巨里^{チョンゴリ}教化所への女性の収容
- (2) 耀徳^{ヨドック}管理所・西林村^{ソリンチョン} (=クムチョン里) 区域の解体

以下、充分な要約ではない (漏れている論点が多い) が、内容を紹介する。

(1) 全巨里教化所への女性の収容

全巨里教化所は、2006 年までは男性だけを入れていた。しかし 2007 年の終わり以降、女性を収容するようになり、2008 年以降には女性専用施設が拡張された。

女性収容者はおよそ 1 千人で、その 8 割ほどが中国から強制送還された者である。(なお、男性は 2 ~ 3 千人のようである。)

この報告書には 3 人の女性 (元収容者) のケースが載っている。3 人とも、中国で中国警察当局に捕まって強制送還され、2008 年から 2011 年までの間の 2 ~ 3 年を全巨里教化所で過ごした。

収容者の栄養状態は過酷であり、今回の証言者の一人の場合、体重が 57kg から 27kg に減った。別の一人は 79kg から 34kg に減った。

女性収容者は、伐木、農業生産 (豆, 芋, トウモロコシ), 家畜生産, 囚人用の調理をさせられている。若い収容者は、かつら, つけまつげの生産にも従事している。自己批判および相互批判の会も毎週、作業班単位でおこなわれている。

(2) 耀徳管理所・西林村 (=クムチョン里) 区域の解体

西林村は耀徳 15 号管理所内の南端に位置する小さな区域で、革命化区域であった。1999 年頃に設置された。

300 ~ 400 人の独身者を入れていた区域で、なかには高官や、留学経験のある学生もいた。収容期間は比較的短く、3 年ほど強制労働をさせたら一般社会に戻っていた。

チョングァンイル

鄭光日は2000年から2003年までここに収容されていた。作業班の監督的な立場にあったため、他の囚人と話す機会が多かった。その記憶に基づいて作成した181人の収容者リストが、この報告書に掲載されている。

衛星写真によれば、2013年4月から9月までの間に、この区域の施設が部分的に取り壊された。さらに2014年10月までに、収容者の居住・労働施設も取り壊された。

これは15号管理所の閉鎖に向けた動きではないかという噂があったが、2014年12月時点では、15号管理所の他の区域は完全に機能しているように見える。その後、張成沢チャンソンテクの関係者が15号管理所に送り込まれるのではないかとの推測も流れた。

西林村にいた収容者は、解体後の行方がわからない。管理所に入れられたときに続いて、ふたたび失踪したといえる。国際社会は北朝鮮当局の説明責任を追及すべきである。

22号管理所閉鎖にともなう収容者移動*のときと違って、今回は、収容者の多くの名前が鄭光日ら元収容者の手で記録されている。

【* 補足（宋允復）】

NO FENCEが2012年当時、22号管理所閉鎖に伴う収容者の行方に注意を喚起した事実を想起しておきたい。

当会は、22号管理所からの収容者の移送に当たった保衛員がふたたび22号に戻った際、自らの家族に漏らした「16号に行ったらガラ空きだった」との情報に当時着目した。

16号管理所の西に隣接する豊溪里フンゲの核実験場や地下施設の工事、核実験実施後の実験場の再整備、すなわち被曝労働に、収容者たちが動員され犠牲になっているのではないかと推測していた。16号管理所の東に位置する花台郡ファデのミサイル基地でも近年拡張工事をおこなっている由であり、そちらへの収容者動員が想定される。

16号管理所に移った元22号管理所保衛員の家族からは、「萬塔山マンタプサン周辺のいくつかの村を明け渡し、そこに16号と15号の収容者（の一部）を送った」との追加情報を2014年に得ている。

「収容者の行方について北朝鮮当局の説明責任を追及すべき」との本報告書の提起を歓迎し、いまだ捕捉できていない収容所が存在する可能性に留意しつつ、情報収集に努めたい。

10月3日の当会集会で、関連情報の一端を披露できるものと期待している。

耀徳収容所出身の鄭光日さん

副代表 宋允復

USB や SD カードにドラマ，映画，ドキュメンタリーなどを落とし，北朝鮮に送り込んでいる。容量 16 ギガバイトの媒体が原価 700 円ほど。姜哲煥^{カンチョルファン}氏の団体分も含めると，過去 6 年間に 7 万個ほどを北に送ったという。財政的裏づけがなければ，そのぶん大量に送り込める。

最近人気なのは，アメリカ映画マッドマックスの最新作『怒りのデスロード』だそう。強烈な独裁のもとで，民は水さえ配給制の奴隷状態。「これは自分たちのことを描いている」と思うのだと。

闇市で商売人が 100 元から 120 元で売っている。これがどんどんコピーされるのだから，広がりは少なくとも数万人単位にはなるのか。

最近ではドローンの活用にもトライ。高さ 2km，水平 8km まで飛ばせる。500m も上空に上がると，小さくてまず目視できず，音も聞こえない。GPS 搭載で，出発地点のデータを入力しておけば，自動運転で元の位置に戻ってくる。ゆくゆくはこのドローンを使って，撮影や物資の投下も試みたいと。

7 月に発売された雑誌『ワイヤード』17 号に関連記事あり。

http://wired.jp/magazine/vol_17/



鄭光日氏近影

「崔承喜の舞を伝えたい」

副代表 宋允復

今年78歳となる^{キムヨンスン}金英順さんだが、頭脳明晰、語気鋭く話は尽きない。

友人だった既婚の人気女優・^{ソンヘリム}成惠琳が金正日の愛人となったことを口外したのが仇となり、1970年に家族ごと^{ヨドック}耀徳収容所に送られた。8年の収監中に両親と長男を失った。

ピカソや川端康成からも称賛された東洋の舞姫・^{チュスンヒ}崔承喜の弟子でもあった。粛清の嵐の中で崔承喜が犠牲になる現場にも立ち会っていた生き証人だ。崔は1967年に思想闘争にかけられ自宅軟禁処分となったが、その後69年に亡くなったと平壤で聞いていた。収容所に送られ銃殺されたとも聞いていたという。宋がこの話を女史から伺ったのはもう10年も前のことになるが、67年は宋の生年でもあり印象に残った。北朝鮮が公開した愛国烈士陵园の崔承喜碑には没年1969年とある。

現在、韓国で舞踊指導の機会を得ているが、「古きものをただ引き継ぎ反復するだけではいけない。芸術は優雅で美しく、人を恍惚とさせるものでなければならない。なぜ年寄りが舞台に出続けるのか」と舞踊界の現状には手厳しい。「PSYのカンナムスタイルが世界を沸かせたように、崔承喜の舞をリファインしスタイルの良い娘たちが身につけたなら、世界に轟く芸術、商品にできる」と意気軒高だ。日本でも崔承喜の舞踊をしかるべき人たちに伝えたいと願っている。



金英順女史近影 2015年9月4日



ソウルの地下鉄某駅に掲げられていた PSY「カンナムスタイル」の油絵。
たまたま遭遇し撮影。シンクロシティが 2015年9月4日

自由を求めてコッチェビになった少年の物語を 翻訳出版準備中

常任世話人 パクホミ

北朝鮮でコッチェビ（ストリートチルドレン）をしていた脱北者、金ヒョクさんの本を翻訳中です。

金ヒョクさんは4歳から清津^{チョンジン}でコッチェビ生活をし、17歳の時には全巨里教化所^{チョンゴリ}に違法越境罪で8ヵ月間収監され飢えと強制労働に苦しみ、大赦で2000年に退所後、2001年に中国・モンゴル経由で脱北、現在は韓国学中央研究院で北朝鮮政治の博士課程にいます。彼の波乱万丈な半生と北朝鮮のコッチェビをテーマにして書いた彼の修士論文が『少年、自由を盗む』というタイトルで2013年に韓国で出版されたので、ぜひ日本の読者に紹介したいと思いました。

日本で出版されている北朝鮮関係の本は政治・歴史関係がほとんどで、北朝鮮の子どもたちについての本はほとんど見かけません。テレビのニュースで流れる映像も、偉そうに指図する太った権力者かミサイルばかり。「北朝鮮」という言葉を聞いたら真っ先に頭に浮かぶイメージは金正日や金正恩、拉致、ミサイルという人が多いのが、残念ですが現実でしょう。

1980年代・90年代の北朝鮮の子どもの実態，配給制度が破たんし大勢が餓死した90年代後半の地方都市の様子，餓死しないためにコッチェビたちがどんな行動をしたのか？ 悲惨な状況下でもコッチェビ同士の友情や兄弟を思いやる気持ちがあったことなど，金ヒョクさんの本は多くのことを教えてくれます。一人でも多くの人に彼の本を読んでもらい，北朝鮮の子どもたちのことを知ってもらいたい。「北朝鮮」という言葉から，太った権力者ではなく，痩せた体で必死に生きようとする子どもたちの姿を思い浮かべる人が増えてほしい。そうなれば北朝鮮の人権改善活動にももっと多くの人々が力を貸してくれるはずとの思いで，毎日パソコンの前で辞書片手に奮闘しています。

来春までには刊行したいと思っています。

曾我ひとみさんのお母さんのこと

代表 小川晴久

去る9月5日，救う会埼玉が主催する曾我ひとみさんの講演会に足を運んだ。曾我さんのお話を聞くのは2回目である。1回目の時と同じく，曾我さんは用意された原稿を静かに朗読された。約1時間。限られた時間内に，伝えたいことを確実に伝えるためには，この方法はたいへん有効であることを，今回充分に感じ取ることができた。

お話の流れは，拉致された時の模様，お母さんのこと，横田めぐみさんと8ヵ月一緒に生活できたこと，北での苦しい生活のこと，家族が唯一の救いであり，拠り所であったこと，ふたたびお母さんのこと。

最後に，拉致がいかにもごいことであるかについて，また被拉致者たちは一日千秋の想いで日本への帰国を願っていることを語られた。「私は母になったが，しかし私はいつまでたっても“母の娘”である」というクライマックスの訴えには，^お嗚咽を押さえることができなかった。会場の埼玉小ホールは500名の座席いっぱいであった。

曾我ひとみさんは，一緒に拉致されたお母さんを探し出すために，お母さんのことを中心に話された。私もここで，お母さんのことを紹介する。

働きづめで優しかったお母さん

お母さん（曾我ミヨシさん）は，毎日朝早く起き，朝食前に畑で一仕事をし，町工

場に夕方まで働きに出、夜はザル作りなどの仕事をし、働きづめであった。母は愚痴ひとつこぼしたことはなく、いつも明るかった。ひとみさんは一度もお母さんから叱られたことはなかったという。

ある時、友だちがセーターを着てきたので、タンスからお金を持ち出し、セーターを買ってしまった。しかしお母さんは叱るどころか、「すまん、すまん」と言ってひとみさんに詫言じた。盆踊りには友だちはみんな浴衣をきていた。母は夜なべをして浴衣を縫ってくれた。

北でもお母さんが支え

北に拉致された時、「私のお母さんは？」と聞いたら、日本にいる、母に会いたかったら朝鮮語を早く身につける、身についたら帰してやる、と言われた。しかし、それは嘘であった。

北でひとみさんを支えてくれたのは、母が買ってくれた男物の腕時計であった。(曾我さんは檀上で腕から外してそれを見せる。)数字が大きくてよく見える時計であった。北では何度か故障したが、必死になって直してもらい、今も使っている。心配なことがあると、この時計に祈った。日本に帰りたいという気持ちを忘れさせないのも、この時計であった。母にもう一度会いたいという気持ちがあったから、がんばった。

今なら、当時母が言えなかった愚痴をいっぱい聞いてあげたい。たくさん洋服を買ってあげたい。(注：ミヨシさんがひとみさんと一緒に拉致されたのは46歳の時。それ以来35年が経つので、今81歳。)自分が日本に帰ることができなかつたら、そのようなことは考えられなかった。北の生活は苦しく、余裕が全くなかつたから。

北にはだまされ続け、日本には失望した

拉致されてから、北朝鮮にはずっとだまされ続けてきた。日本にも失望した。日本の政治家が何人も北朝鮮に来た。しかし私のことなど何にも心配してくれていない。頼れるものは家族しかいなかった。今でも日本から拉致された人々は、月を見ては日本に帰ることを必死に願っている。本人の意思を全く踏みにじって拉致することほど、残酷なことはない。「私は母にはなりましたが、私は永遠に“母の娘”なのです。一刻も早く母に会いたい」と言ってひとみさんは講演を終えた。

講演を聴いて思ったこと

考えてみると、曾我ミヨシさんほど、悲劇的な人はいない。1978年8月12日夕刻、佐渡で娘のひとみさんと一緒に拉致(誘拐)されて以来、全く消息がわから

ない。あまりに条件が悪いため、曾我ミヨシさんに関心を寄せる人は少ない。しかしひとみさんのお話を聴くと、とても立派な人であった。非の打ち所がない。たぶんひとみさんは世界一尊敬している母であるだろう。この非の打ち所のない人の消息が全くわからない。知っている者がいるとしたら拉致実行犯と北朝鮮当局である。

完全に足跡が消されてしまった人々。曾我ミヨシさんは日本人であるが、強制失踪者たちは、いわゆる被拉致者を含め、多数いる。北朝鮮国内で、ある日突然消えてしまった人々は、山の中の強制収容所に送られた。そこは世間から全く隔離された場所である。北朝鮮当局は、そのような強制収容所は存在しないと、いまだに嘘をつき続けている。

* 「産経新聞」のウェブサイトには講演内容が掲載されています。

<http://www.sankei.com/affairs/news/150912/afr1509120003-n1.html>

側 隠

副代表 宋允復

5月に学術交流で来日していたある脱北者と話していたら、シンウンミなる在米コリアンのおばさんが話題に上った。

6月には日本各地で講演してまわるのだと本人がフェイスブック上で宣伝しているのだそうで、「在日同胞はじめ日本の世論に、誤った北朝鮮イメージを拡散するのではないか」と心配している。

シンウンミなる人物、4月初旬に訪韓の際には現地のテレビで盛んに報じていて、知り合いの脱北者が画面上で批判していたので記憶には残っていたが、宋には「自己陶醉型の軽薄な人」という印象しかなく、韓国での騒動を理解はするものの過剰にも思われた。

「心配には及ばない。そんな奇人変人の類がおめでたい話をしてまわったところで、日本では何の影響もないだろう」と目測を伝えた。

しかし実際どんなものか直接見てみようとして、6月16日、東京の会場に足を運んでみた。実質的に総連の主催なので入場を拒否されるかと思いきや、すんなり通されたので、後ろに陣取り静かに聞いていた。

平壤のホールでビールに酔いつつ談笑に興じる女性たちの写真を映してみたり、平壤の鳳水^{ボンス}教会では祈ることもできたのだ、日本で朝鮮学校を訪れて感動したの、

韓国ではアカのレットルを貼られ、実の親からも会うのを拒否されて傷心だのと、弁舌は滑らか、歌まで歌い、テンポよく進む。

「家族を分かちその再会を妨げている南北の政府には恐ろしい天罰が下るに違いない」のくだりは、親北一辺倒ではない、南北双方に言うべきことを言っている、というアピールのつもりだったのか。

本人の話は一段落し、壇上で在日のおぼさんとの掛け合いになったが、会場から「質問させてほしい」と手が上がる。

見ると、脱北者の川崎栄子さんだ。

「楽しいお話を聞かせていただきありがたく思う。しかしながらあの国では90年代に多くの人が餓死した。そういう政治をやった国だという現実も踏まえて話されるべきではないか」という趣旨の提起であった。会場からはどよめきがあがり、「なんであんなこと言うのよ」と非難も聞こえる。

これがシンウンミには不意打ちだったようだ。とたんに動揺し、「私は外貨を使って幾度か観光旅行しただけに過ぎません。そういう深刻な問題は専門に研究している方もおられるでしょうから、そちらに委ねたい」

隣の在日のおぼさんも、「そういうことを知らないわけではないが、ここでは……」としどろもどろだ。それぞれ自覚はあるのだ。

せっかく調子よく進んでいたトークコンサートのおめでたさが、川崎さんの一擲^{いつてき}で吹き飛んでしまった。

思わず吹き出したのだが、それが目に留まったか、主催側の者に誰何^{すいか}される。

「あなたはたしか、『北朝鮮人権』云々と示威をしていた人ではありませんか」

「そのとおり」

「あなたは統一を願ってはいないでしょう。この場は統一を願う人たちの集いです。入場させたこちらの落ち度は認めるので、申し訳ないがお引き取りいただきたい」
みるみる7、8人に囲まれる。

「騒ぐつもりはないから、みっともないマネをせずに放っておけ」と言うのだが、「出てくれ」の一点張りで押し問答、周囲が何事かとざわつき始めた。心配そうに見つめる若い男女の姿も目に入る。

そのうちもみ合いが始まってしまい、多勢に無勢、会場を後にした。

こちらが統一を願っているかいらないか、わかろうはずもなからうが、彼らにしても大義名分に殉じていると自負するところがなければやっていられないのであろうとは理解した。たとえそれが多分に自己欺瞞であると自覚しているにしても、有形無形の圧力、バッシングをくぐる苦衷に思いを致しつつ、いずれ胸襟を開いて語り合える日の遠くないことを願っている。

備忘録 2015年9月

宋允復

※情報源秘匿等の考慮から、ディテールはぼかしている。

- 今年6月に、ミサイル開発を担う第2自然科学院では、10月8日の長距離ミサイル発射成功に向け2000人の「決死隊」を組織。今回の射程距離は1万2千km。この段階ではまだ核実験までは決意せず。中国を刺激しすぎるとの判断から。

ところが、9/3 戦勝記念日パレードに中国が金正恩宛ての招待をよこさなかったことに正恩が憤り、「目に物を見せてやる」と息巻く。中国の朴槿恵に対する厚遇、北朝鮮に対する冷遇に神経を尖らせ、特に韓中国防長官間のホットラインまで開設した中国側の意図を危惧。

「改革開放に進まない北朝鮮を擁護するのは中国の国益を損なう。むしろ韓国主導の朝鮮半島統一を促進することで中国の影響力を強化するとの選択も取りうる」という中国の判断があると理解。

その故かどうか、海外派遣要員が「ミサイル発射と核実験両方やる。今回は水爆で威力は従来の100倍だ」などという話を9月半ば以降漏らし始める。

●中国の対北スタンス

- 5月中旬、朴奉珠総理非公式訪中、習近平が金正恩に会ってくれるよう求めたが拒否。
- 習近平は金正恩を認めておらず、相手にするつもりはない。
 1. 金日成、金正日に忠誠を尽くした人材を次々粛清し恐怖政治をやっている。
 2. 軍事、核開発に膨大な資源をつぎ込み、人民を飢えさせている。中国の一つの省にも満たない人口を食わせられない者が一国の首領を名乗り、習に会わせると言っているが、金正恩にはその資格がない。
 3. 金正恩の度重なる白頭山訪問の目的
 4. ロシアだけでなく日本とももっと近づこうとしているのを警戒。

●日本関連

- 拉致被害者一部移動
- モンゴルでの接触で日本に多額を要求し日本側が難色
- 最近になって金正恩が「核問題もあり、米国の手前どうせ日本は金を出せない。父の前轍は踏まない。日本には以前と同じ内容を報告しろ」と発言
- しかし中国の韓国傾斜で危機感、日本への対応に影響するかどうか。
- 身上資料入手の可能性

★ホームページが新しくなりました！★

URL はそのままです。 <http://nofence.jp/>
これからさらに充実させていきますので、「お気に入り」に登録をお願いします。

お知らせ Contact

NO FENCE The goal of our activities is to abolish the concentration camps in North Korea. 北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会

HOME ABOUT EVENT BOOKS BLOG VIDEO Q&A LINK CONTACT

ICNK Assembly on Establishment of Strategies for Future Actions
ICNK 총회: COI 권고안 실행을 위한 활동전략 수립
일차 2015년 4월 15일 장소 서울글로벌센터 국제회의장 후원 ICNK

北朝鮮の人権問題に取り組む国際NGOの総会 in ソウル

NO FENCEとは 記者会見&院内集会

「北朝鮮の女性政治犯を釈放せよ」米上院で決議案提出

9月22日、米上院で「世界の20人の女性政治犯の釈放を求める」決議案が提出された。

共和党のKelly Ayotteら20議員による超党派提案。米務省が9月に展開している#FreeThe20キャンペーン（世界的に著名な20人の女性政治犯の釈放を求めるキャンペーン）をバックアップする動きだが、注目されるのは、釈放されるべき女性政治犯20名のうち1名を、不特定の「北朝鮮の女性政治犯たち」としていること。

「女性、子どもも含めておよそ8万～12万人が残忍な政治犯収容所に囚われていると推算されている。飢餓、強制労働、処刑、拷問が日常で、女性はレイプ、性暴力、強制墮胎にさらされている」と紹介。生き証人として^{キムヨンスン}金英順さんを挙げている。

- Kelly Ayotte 議員のプレスリリース

http://www.ayotte.senate.gov/?p=press_release&id=2201

- #FreeThe20 キャンペーン

<http://www.humanrights.gov/freethe20/>

国連人権理事会に響く「収容所を廃絶せよ」の声

北朝鮮人権問題で初の公式パネルディスカッション

9月21日、ジュネーブの国連人権理事会で、北朝鮮人権状況に関するパネルディスカッションを開催。これまでサイドイベントでは幾度もあったが、人権理事会の公式イベントとして実施されたのは画期的。

拉致、強制失踪、政治的理由による拘禁をテーマに、司会を国連COIを率いたマイケル・カービー氏が務め、国連北朝鮮人権特別報告者マルズキ・ダルスマン氏、『北朝鮮 隠された収容所』著者デイビッド・ホーク氏、NO FENCEも参画するICNKから^{クォンウンギョン}権恩景氏、拉致被害者家族の飯塚耕一郎氏、各国代表、NGO代表らが発言した。

ダルスマン氏は、南北の離散家族再会について、「10月末までに再会が見込まれるのは100家族なのに対し、再会を待ちわびる家族数は6万6千世帯であり、数を増やすべき」と指摘。

ホーク氏は、北朝鮮当局が引き続きその存在を否定している管理所という名の強制収容所に、国際赤十字などにアクセスさせ、そこに名も知られずに囚われている人たちの行方について説明させるべきとした。また18号管理所が漸進的に廃止され、多くの人解放されたプロセスが、14号、16号、25号等の他の収容所でも適用可能なのではないかと提起した。

飯塚氏は、世界各国の数百人に上る拉致被害者を北朝鮮が一刻も早く返し、愛する家族と再会できるよう、国際社会の協力を求めた。

権氏は、2000年以降2014年までに北朝鮮で公開処刑された者の数は千数百人に上り、近年は中国の携帯電話を用いて国外と通話したとか、韓国のドラマ等の映像を見たといった理由で処刑され収容所に送られる者の数が、急増しているとした。

これらの発言に対し、北朝鮮代表は「COIはわが国の社会主義体制を崩そうという政治的動機に基づくものであり、このパネルディスカッションそのものを拒否する」「自分たちの頭の高さを追えと言いたい」と述べた。

EU代表は、すべての政治犯収容所の閉鎖、国際刑事裁判所への回付を含むCOI勧告への支持を呼びかけ、アイルランド、ドイツ、ラトビア、チェコ、ポーランド、オランダ、オーストリア、エストニア、スロバニア、スロバキア、ベルギーといったEU諸国がこれに続いた。米国代表も、子ども・女性を含む8万から12万人の収容者が政治犯収容所で苦しんでいると言及した。

NGOからは、脱北者が経験する人身売買、強制送還後の過酷な処遇について、脱北者を単なる不法越境者として送還している中国の共犯者性について直截に指摘された。

3時間弱のパネルディスカッションの様子は下記のウェブサイトで見聴できる。

<http://webtv.un.org/watch/panel-discussion-on-dprk-16th-meeting-30th-regular-session-of-human-rights-council/4498727191001>

■■■■■■■■■■ 10月3日 NO FENCE 集会 ■■■■■■■■■■

肅清、ミサイル、核、拉致

——元エリートが読み解く金正恩の本心——

近年まで平壤の中枢にいたエリート脱北者を緊急招請。

タイミングから言って、肅清、ミサイル、核、拉致などの
トピックが中心になりそうです。

併せて、この間に当会が得ている最新情報を共有させていただきます。

何をどこまで引き出せるかは、質疑応答次第。

※参加は、事前申し込みを受け付けた方のみとさせていただきます。

お名前、ご所属、連絡先(電話番号)、当会会員・非会員の別を、
メールまたは電話でお知らせください。

songyb777@yahoo.co.jp

070-5459-9817

※撮影・録音はご遠慮ください。

日時： 10月3日(土) 午後1時半から4時半まで

場所： 人権ライブラリー (東京都港区芝大門2丁目10-12)

参加費： 無 料

お問い合わせ先： NO FENCE 事務局 070-5459-9817

